

かけだ詩⑫ファイナル

そだちと臨床研究会

川畑 隆
かわばた たかし

黒歴史

今になっても
消し去りたい
思い出したくもないのだから
人に喋れるはずがない

蓋をすればするほど
勝手に突(つ)いて飛び出してくる
三つやそこらだけだと思っていたが
十も二十も顔を出す

すべてのことには意味がある
それがあってよかったねなんて
他人(ひと)にはそんなこと言ってるけれど
ただただ消え入りたいしごめんなさい

エマニエルにいちやんず

最初に「フロイズロ」という名前をつけた自分が
いまだに恥ずかしい
それは改名された「エマニエルにいちやんず」が
あまりに素晴らしい命名だったから

大学二年の頃だから五十年前

心理学科の呑み仲間の自主的クラブ

学内のソフトボール大会などに出まくった

その最初の申し込みのときに求められたクラブ名

心理学科の二年生だから「フロイズロ」

ああ恥ずかしい

何それ？ OくんもSくんもMくんもみんな

代案はないくせに不満顔

そこにDくんの魔法の杖がふられて登場したのが

「エマニエルにいちやんず」

破顔一笑 即時決定

シルビア・クリステルの「エマニエル夫人」

当時一世を風靡した妖艶なフランス映画の主人公

私たちがみんなが酔いしれた ♪・♪・♪・♪・♪
エマニエル♪

テーマのメロディが今でも口をついて出てくる

当時はまぶしいほどの「エマニエルにいちやんず」

今でも輝いてるかな？ 「エマニエルにいちやんず」

懸念のつぼみ

正しいことが拡がっていく
どんどんと言っていていくらしいに
あれもこれもこうあるべきと
至るべき目標が示される

正しいことへの懸念
それは反論しにくいこと
懸念を示すことさえも
正しくないと責められる

正しさを求められると
それを身につけようとする
でも身につかない自分はダメなんだと
おのれからも責められる

正しさに追いつけない
尻を叩かれて息が切れそうだ
正しさに追いつくために
無理を背負い込んでいる

正しいってホントに正しいんだろうか
正しいのだとしても
その横でそっと息をしている
懸念のつぼみに水をやりたい

長谷川平蔵

あの平蔵の笑い声と顔
親分肌で豪快で
親し気でやんちゃで
それを求めて再放送のビデオがたまる

中村吉右衛門が亡くなったことも
きつかけになつたが
長く素通りしていた
鬼平犯科帳

火付盗賊あらためかた 改方 長谷川平蔵である！
いつのまにか「である」が消えてしまったが
この決まり文句に込められていた
格式と威厳

そして初めて聴いたときにハツとした
時代劇には斬新な
エンディングテーマ「インスピレイション」
ギターがなんておしゃれなんだ

水戸黄門や大岡越前と同じ紋切り型でも
中村吉右衛門が 長谷川平蔵が
繰り返し映像に現れてくれるのが
ありがたい

そして誰もいなくならなかった

父がいなくなり 母もいなくなった
祖父母に引き取られた 二人とも亡くなった
彼氏の赤ん坊を産んだ 彼氏はいなくなった
十代のママの子育て みんなが支えた
友だちと同じように 私も高校に行きたい
それはいいことだ 晴れて高校の門をくぐった
保育所に赤ん坊が来ていない 大騒ぎになった
友だち連中が面倒をみていた 危なっかしかった
施設に預ける話もあった 赤ん坊の間だけでもと
でもママもまわりも 預けたくなかった
大切な人が次々に いなくなり続けたママ
赤ん坊はママと一緒に 友だちもママのまわりに
保育所に通わせながら みんなで育てていこう
ママも友だちもうなずき まわりも胸をなでおろした

居場所

実習先の先生から
カードを作る作業を頼まれた
作業用具は実習生の数だけ
そうなんだ 引率の私は実習生ではないんだ
私にも作業をさせてくださいよ
そう言いたくなくなった気持ちを実習生に問うてみる
彼らの反応は私の気持ちを後押しはしない
引率だけの教員でいたほうがやっぱりいいかな
気持ちは年を取ってはいないと自分で思う
でもやっぱり六十六歳の引率の教員を
実習生と同じように扱うわけには：
先生がたの立場での自己コントロール
実習生と同じように動くのはちよつとちがう
でも目障りな粗大ゴミはしんどい
引率の老人のちようどよい「居り方」は？
誰も教えてはくれないか

居場所Ⅱ

よいように思われたい
わるいように思われたくない
よいかわるいかの二分法

期待にそうのがよいことで
そわないのは期待に背くこと
その期待は相手の事実か自分の想像か

期待されていないかもしれない
私の思わぬ期待なのかもしれない
あってもないかのようなものかもしれない

よいかわるいかではなく
期待も定かではないとしたら
そこそこに自分に正直で居るしかない

そんな当たり前のことに
小むずかしく根拠を求めなくなるほど
私はいまここに居なければならぬ

あつそうかそういうことか

孫が*
孫が祖父母に訴える

あなたたちは自分のことばかり
自分の損得が基準で生きている
わたしたちは新しい時代を
生きていかなければならないの
地球のことも他の人たちのことも考えながら

祖父の祖母に隠れての投資の失敗
責める祖母に息子は

それは裏切りなんかじゃなくって
へマしたってことじゃないの
へマしただけの人間を
そんなに追い詰めるかなあ

真正面からきつぱりと

また軽やかに助け起こす
小むずかしい解説ではない
主張というよりは使命感
そして盛り過ぎない意味付け
そんなふうに言われたことはなかったような

あつそうかそういうことか
時代が変化していることは知っていたけれど

自分に向けられたこととして直に感じた
新しい時代はとつてもいいものを含んでいる
そして年寄りにも時代をうまく繋いでゆく役割はある
視界を愚痴で曇らせたくはない

やさしいのは弱いのではない
みんな生きていくやりかたの基本なのかもしれない
無関心に見えるのも
それぞれの生き方を見守っている結果なのかもしれない
その反作用をそれ見たことかと突き放さず
学びながら一緒に考えていけることはないか

若い人たちの考えから年寄りの考えを引き算せずに
年寄りの考えをどう足し算してもらえるか
愚痴ではなくどう手渡すか
受け取ってもらえる形でどう残すか
主張したいことはある
その主張のしかたを練り直そうと思う

*二〇二二年五月から六月にかけてNHK・BSプレミアムで放送された、
風間杜夫・松坂慶子・藤田弓子・平田満らが出演のドラマ『今度生まれた
ら』の一場面。同じ時期に、AIを用いた政治を十七歳の総理が担う実験
都市を描いた『十七歳の帝国』も総合テレビで放送されました。ここでは
若い世代も年寄りの世代も互いに影響し合い変化していました。

近況

お風呂で 頭を洗ったよ
お風呂で 頭を洗ったよな
お風呂で 頭を洗ったつけ
お風呂で 頭を：
洗おうかな

さようなら

言うのは そうでもないけれど
書くときの さようならは
ちよつとさびしくて かなしい
だから 最近よく書くのは
次に会うときまで さようなら
さようならだけど また会える
次に会うことは ないかもしれないけれど
さようならは まだ先
そんなふうに 今のさようならから逃げています